

## 檜山爲次郎研究開発機構教授が フンボルト賞を受賞



檜山爲次郎研究開発機構教授の研究業績が認められ、2012年のフンボルト賞を授与されました。

フンボルト賞は、1860年に起源を発する歴史あるドイツの財団“アレキサンダー・フォン・フンボルト財団”が創設した賞で、ドイツではもちろん世界でも最も権威のある賞の一つとされています。小柴 昌俊氏をはじめ、本賞の受賞者のうち実に48名が後にノーベル賞を受賞しており、「ドイツのノーベル賞」とも称されています。

檜山は、構造が異なる有機分子どうしを結合させて新たな化合物を生み出す炭素-炭素結合形成反応について長

年にわたり研究に携わっており、これらの研究の成果が高く評価され今回の受賞となりました。なかでも、1988年に開発した“檜山カップリング”は、2010年度のノーベル化学賞受賞対象となったカップリング手法に比べ、穏和な条件下でクロスカップリング反応を行うことを可能としています。この反応で用いるケイ素反応剤は反応後の回収・再利用が可能であるうえ、ケイ素の置換基すべてが有機基であるため極めて安定であり、長期保存が可能となりました。

また、野崎 一氏・岸 義人氏らとともに開発した、塩化クロム(II)を用いるハロゲン化物とアルデヒドの反応(野崎・檜山・岸の頭文字から“NHK反応”と呼ばれています)は、構造の複雑な生物活性天然物の全合成において世界的に大きく貢献し、医薬品の強力な製造方法として注目されています。

## 国際交流の現況

本年5月1日現在、本学は28カ国、124大学と国際交流協定を結んでおり、留学生の受け入れは過去最高の25カ国、750人を数えています。

日本人学生を送り出す方でも、交換協定に基づく留学や本人が留学先を自力で確保した認定留学による派遣学生が76名おり、さらにこの数字は増加傾向にあります。

これらの数は、大学院生も含めて2万7千を超える学生が在籍する本学では少ない数字かもしれません。しかし、そこに至った学生は受け入れ先の語学要件を突破するために地道な努力を重ねています。留学先でその国の大学・大学院レベルの教育を受け、研究を行うにはさらに大変な努力が必要であることは想像に難しくありません。本学ではそれに挑戦する学生が増えており、そのような学生が益々増加するようにさらに力を注いでいきます。

## 中大Webサイト英語版がリニューアル

中央大学は、重点事業方針として「国際化」を掲げています。昨年11月、本学の国際化をさらに推進し、グローバル社会に貢献できる有意な人材を育み、さらには教育・研究の両分野で国際的に評価される総合大学としての地位を確立・発展させることを目的として、英語Webサイトをリニューアルしました。新Webサイトでは、中央大学のみならず日本の「今」を広く伝えるために、写真や統計資料等を充実させたほか、最新の大学情報や日本留学情報を掲載して

います。また、本学と読売新聞の共同企画『Chuo Online』の英語版と連動させ、本学の最新情報をお伝えする「Features」(オピニオン・研究・教育・人-かお等)を定期的に更新しています。



## 校歌・応援歌・惜別の歌

本学の校歌・応援歌・惜別の歌について、卒業生の皆さまに、各会報での掲載や、支部総会等で配布する歌詞カードとして活用いただけるように、この度、以下のサイトより印刷可能な「大学の歌の統一推奨表記」をご用意しました。

是非、ご利用ください。

### ■ 校歌・応援歌・惜別の歌

[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/about/a05\\_01\\_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/about/a05_01_j.html)



# Chuo Online —中央大学の研究・教育力を毎週、国際発信

読売新聞のメディアカと連動させて、本学独自の情報配信を行っている『Chuo Online』も今年でスタートから3年目を迎えています。

毎週月曜日更新の「オピニオン（本学教員による社会への提言、コラム等）」に加え、「研究－教養講座」については毎月2回の更新、「教育」と本学出身者の活躍を紹介する「人－かお」は毎月各1回の更新で、日本語・英語の両方の言語で発信しています。

とりわけ「オピニオン」は、基礎研究が主な大学において、時代の趨勢を敏感に捉え、タイムリーで話題性のあるテーマで発信していますので、是非、チェックください！



## オピニオン:テーマ一覧 (2011年11月～2012年5月)

スポーツは貧困を救う?!	総合政策学部准教授	小林 勉
なぜ中国ではジャスミン革命が起きないのか	経済学部教授	深町 英夫
「被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう！」キャンペーン	名誉教授	田中 拓男
携帯電話の電波は人体に悪影響を及ぼすか?	理工学部教授	白井 宏
「TPP 問題」を考えるために	商学部教授	斎藤 叫
「蟻族」と「啃老族」－中国大学生の進路・就職事情の一断面	商学部教授	酒井 正三郎
大型合併と独禁法	法学部教授	金井 貴嗣
それを解き放とうとする支配欲こそがひとつの過ち	文学部教授	野口 薫
自然体験のすすめ	法学部教授	影山 義光
エリザベス女王の「ダイヤモンド記念」	法学部教授	新井 潤美
社会保障と税の一体改革の必要性和政府素案の問題点	経済学部教授	片桐 正俊
労働のサステナビリティを目指して	経済学部教授	鷺谷 徹
ノーベル賞作家が描く福島原発事故 - 『光のない。』	文学部教授	高橋 慎也
ブランド・パワーを用いる経営	ビジネススクール教授	田中 洋
現代人とミラーニューロン	商学部教授	木下 耕児
TPP－検討にあたっては時間的・地理的に広がりのある視座で	ビジネススクール准教授	国松 麻季
『中央評論』特集「3・11 複合災害と日本の課題」をめぐって	法学部教授	秋山 嘉
田んぼは「自然」か?	理工学部教授	佐藤 尚次
カナダという国	ロースクール教授	長内 了
大都市改革のゆくえ－大阪都構想	経済学部教授	佐々木 信夫
言語表現者のある姿勢	法学部教授	里麻 静夫
コンピュータ支援 3D 内視鏡で「がん」に立ち向かう	理工学部教授	鈴木 寿
陸前高田ふるさと再生の支援：千年を見据えて（前編・後編）	理工学部教授	谷下 雅義
デフレ脱却こそが国債累積問題の解決策である	経済学部教授	浅田 統一郎
原子力賠償と復興	ロースクール教授	升田 純
多言語共生社会、台湾における客家語	法学部教授	遠藤 雅裕
ハードウェアを活かせるシステム技術で日本のエレクトロニクスを復興する	理工学部教授	竹内 健
ハーグ条約の批准と離婚後親子法	ロースクール教授	棚瀬 孝雄

## 教養番組『知の回廊』 —「防災」テーマに特別講演会を実施

「知識を知恵に進化させる」番組制作をモットーに2001年度からスタートした教養番組『知の回廊』。

6月23日(土)に京王プラザホテル八王子で実施した、総合政策学部 平野廣和教授による講演会には、約130名の来場者がありました。

テーマは「多摩の自然災害2 - 『知の回廊』放送開始からの首都圏の自然災害事例 地震から竜巻まで-」でした（「多摩の自然災害1」は、本番組第1回放送タイトルです）。

3.11の大震災以降、防災について何かと意識される昨今、地元にて特化した内容

やデータも数多く盛り込まれており、参加者は真剣に講演を聞き入っていました。

「知の回廊」特別講演会は、今年度中

にあと2回程度の実施を予定していますので、大学公式Webサイトのイベント情報等でご確認ください。

